

道なき道も一歩から

東京大学医学部附属病院医療情報ネットワークセンター/二子新地ひかりこどもクリニック

澤田なおみ

「医療コミュニケーションって何ですか？」自己紹介をしたときに決まって聞かれる質問がこちらです。私は、小児科医のバックグラウンドを持ちつつ、小児の医療コミュニケーションというレアな分野を学び・開拓するという道なき道を歩んでいます。

医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーションとも言われます）とは、医療や保健にまつわるコミュニケーションを扱う学問分野の一つです。患者-医師のような個人間、健康教育や疾患啓発のような集団向け、マスメディアやソーシャルメディアまで、様々なコミュニケーションがよりよいものとなるための研究や実践をしています。

一番の転機は、小児科の臨床をお休みして、社会医学系の大学院に進学することを決めたタイミングです。同期が小児科サブスペシャリティの経験を積んでいる間に、臨床を一旦離れることがキャリアにどう影響するのか。追いかけるべき背中のない中でどう進んでいけばよいのか。漠然とした不安がつきまといました。しかし、「医療コミュニケーションをしっかりと学んでみたい」という内なる声を信じてみようと思いました。

そんな不安と期待を抱えながら入学した大学院では、公衆衛生全般を学んだのちに、医療コミュニケーション研究やその礎となる理論や概念を目一杯浴びて（時に溺れかけて）、その面白さと奥深さにすっかり魅了されました。「あの子に、あの親御さんに、どんなコミュニケーションができればよかったのだろう？」という問いに、“なんとなく”ではなく、“集合知”がまさに蓄積されつつあり、微力ながらも自分もその一助となれるのですから。

こうして私の心が赴く方に一歩踏み出したことで、失ったものも確かにあるのですが、このユニークなキャリアを発揮できる場や面白がってくださる方々が少しずつ増えてきました。小児科の先生方とコミュニケーションについて学びを深めたり、お子さんや親御さん向けの情報発信に携わったり、人生がより自分らしい色を帯びたように感じます。

病院で臨床に勤しんだ5年間を第一章、大学院で医療コミュニケーションに邁進した5年間を第二章とすると、現在は二つを両立するという第三章に突入したところですが、どんなバランスを取っていけるか悩みは尽きませんが、どちらかで吸収したことはきっともう一方の養分にもなると信じています。そして、道なき道でも多くの人が通るようになれば「通路」になるということで、小児科と医療コミュニケーションの知見を共有して協働していくためにも行き来を続けていきたいと思っています。

最後に、道なき道への一步を応援して下さった方々への感謝と、新たな一步を踏み出そうとしている方々へのエールを込めて、拙筆を締めさせていただきます。

[著者略歴] 澤田 なおみ (さわだ なおみ)

小児科医、医学博士、公衆衛生学修士

2015年 名古屋大学医学部卒業

2015-2020年 公立陶生病院・名古屋大学医学部附属病院

2020-2021年 東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻 専門職学位課程

2021-2025年 同 社会医学専攻 医療コミュニケーション学 博士課程

所属 (2025/4/13 現在)

東京大学医学部附属病院 大学病院医療情報ネットワークセンター

国立成育医療研究センター 社会医学研究部共同研究員

二子新地ひかりこどもクリニック/さくらキッズくりにつく

～ダイバーシティ・キャリア形成委員会より～

「道なき道を歩むということ」

“医療コミュニケーション”、この分野はようやく芽吹き始めたばかりの新しい領域です。しかし、医療の本質は、“人と人の対話”であり、その根底にある、“伝える”、“聴く”、“分かり合う”ことの重要性は、AIが進歩する今の時代だからこそ、今後ますます高まっていくことでしょう。日々の多忙な臨床の中で、他職種に任せたり後回しにされがちなこの領域を尊重した、澤田先生の優しさと勇気に敬意を表します。臨床の知と社会の知、双方を行き来する著者の歩みは、医療のあり方そのものを問い直す挑戦と言えます。「伝わる医療」が、もっと優しく、もっと強く広がっていく日を願って、著者の第三章を応援していきたいと思います。

最後に、誰かが一步を踏み出せば、そこに小さな「通路」ができる。そしてその通路が、やがて多くの人の「道」になっていく……。道なき道を進み挑戦し続けるその姿は、同じようにキャリアの分岐点で立ち止まる多くの医療者にとって、間違いなく一つの希望の灯となるでしょう。